

## 「自由で開かれた国際経済秩序の再構築に向けた現状と課題」

### ー米ブルッキングス研究所のガーツ研究員に聴くー

2020年8月26日

講師：ジェフリー・ガーツ ブルッキングス研究所 研究員

経済広報センターは8月26日、米国ブルッキングス研究所でグローバル経済・開発プログラムを担当し、オックスフォード大学でグローバル経済・ガバナンス・プログラムの研究員も務めるジェフリー・ガーツ氏を招き、「自由で開かれた国際経済秩序の再構築に向けた現状と課題」と題するオンライン会合を開催した。会員企業の幹部約80名が参加し、米中対立が進む情勢下における国際機関の役割や国際経済秩序の再構築に向けた日本への期待などについて聴取。米中対立のグローバル・サプライチェーンへの影響や米国大統領選の国際経済への影響などについて活発な議論が行われた。

ガーツ氏は、コロナ危機がグローバル化の問題を複雑化し、米中対立も激化するなか、これまでの国際経済秩序に背を向ける潮流が加速していると指摘。今後の国際経済秩序は、WTOや世界銀行のような既存の国際機関よりも、アジア・インフラ投資銀行やTPP11（環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定）など、特定の課題に基づくより小規模なグループや有志連合によって担われていく傾向にあり、グローバル・ガバナンスは、ハイブリッドで流動的なメカニズムにシフトしていこうと述べた。

また、米中対立に関連して、経済分野が地政学的なライバル関係になっていると指摘。安全保障と経済の境界が曖昧になるなか、日本を含むすべての国が、地経学的な国家能力をいかに増強していくかが問われており、米中それぞれの市場を維持したい企業には戦略的なプランが必要になるとの考えを示した。

以上

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話 : 03-6741-0031

<http://www.kkc.or.jp/>

<http://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。